

資料3 街の機能や構成と将来のイメージについて

■土地利用誘導地区の街の将来イメージ (たたき台)

実現したい街、相原らしい活気と賑わいのある街について、将来の土地利用の可能性も含めて、街の将来イメージについて示してみます。

地区の西側は、  
“個人商店や事務所、住宅等の多様な利用がされる街”

地区の東側は、  
“大中規模店舗の立地する街”

<西北側>

- 地区内の道路ネットワークを形成し、地区内の安全性を確保するとともに、居住人口の増加を図ります。
- 駅近くという立地特性を活かし、駅前周辺の生活中心地の役割の一部を担い、住宅を基本としながらも中小規模の店舗や事務所なども立地できるようにします。
- 旧町田街道や都市計画道路などの整備により、安全な歩行環境を形成します。



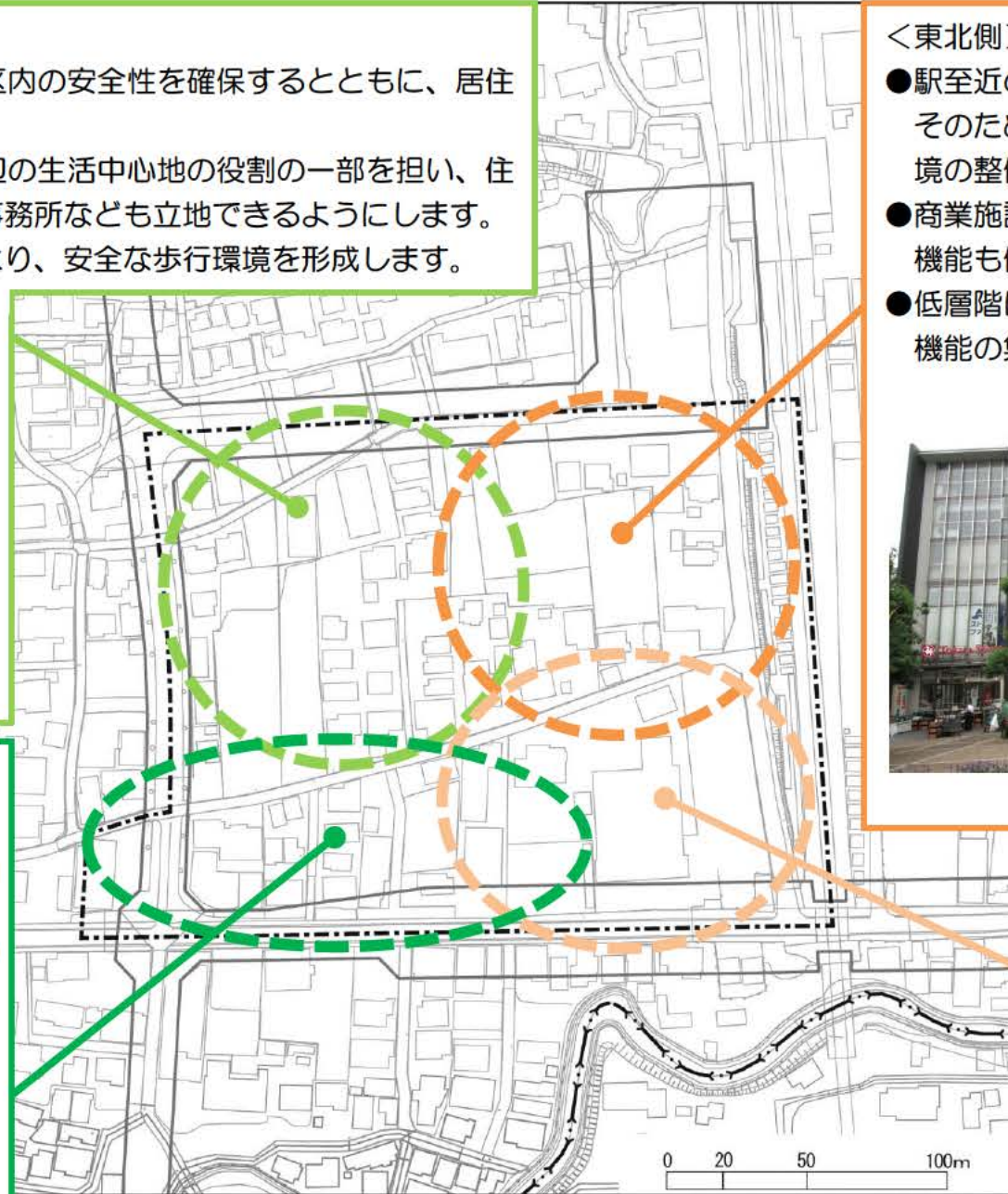
大倉山駅西口

<西南側>

- 幹線道路の整備に併せ、駅近くと幹線道路沿道の特性を活かし、駅前周辺の生活中心地の役割の一部を担い、市民の暮らしを支える商業地を形成し、生活を支える機能の集積・向上を図ります。



大泉学園駅北口



<東北側>

- 駅至近の立地を活かし、土地の有効利用や商業施設等による利用を図ります。そのため、適切な規模の土地の集約化、区画の整備を図り、都市基盤と建物環境の整備を図ります。
- 商業施設のみならず、地域の拠点・地域の核として、コミュニティ機能や居住機能も備えたものとしします。
- 低層階には商業機能を集積させ、にぎわいを創出するとともに、生活を支える機能の集積・向上を図ります。



仲町台駅南口



粕江駅北口

<東南側>

- 北東側を補完する位置づけとします。
- 商業、住宅などの機能、コミュニティ機能などを想定します。
- 一定の土地の集約化、区画の整備を図り、都市基盤と建物環境の整備を図ります。

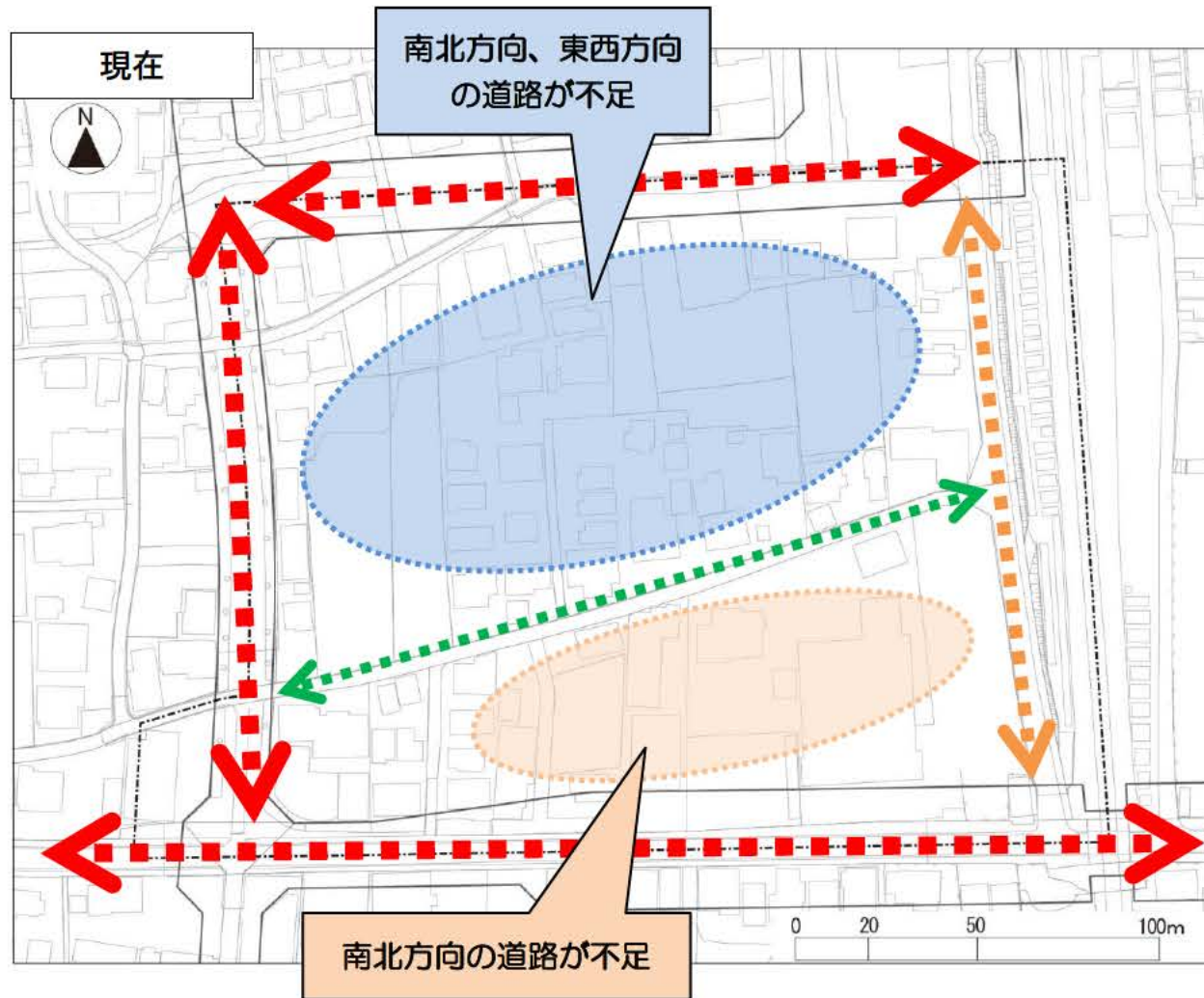


大泉学園駅南口

■土地利用誘導地区における都市基盤整備の方向性(たたき台)

本地区は、地区の外周が都市計画道路等で囲まれており、整備の方向性が見えていることから、地区内における道路構成を、駅前という立地特性を踏まえて検討していく必要があります。

- ①少しでも負担を少なくするために、今ある道路を活かした道路ネットワークを検討します。
- ②特に、現在地区内には無い南北方向の道路の設置を検討します。



- 幹線道路  
＜地区内外を結ぶ道路＞
- 主要生活道路  
＜地区内で重要な道路＞
- 生活道路  
＜地区内で主要な道路＞
- 西口と東口の連絡路の検討

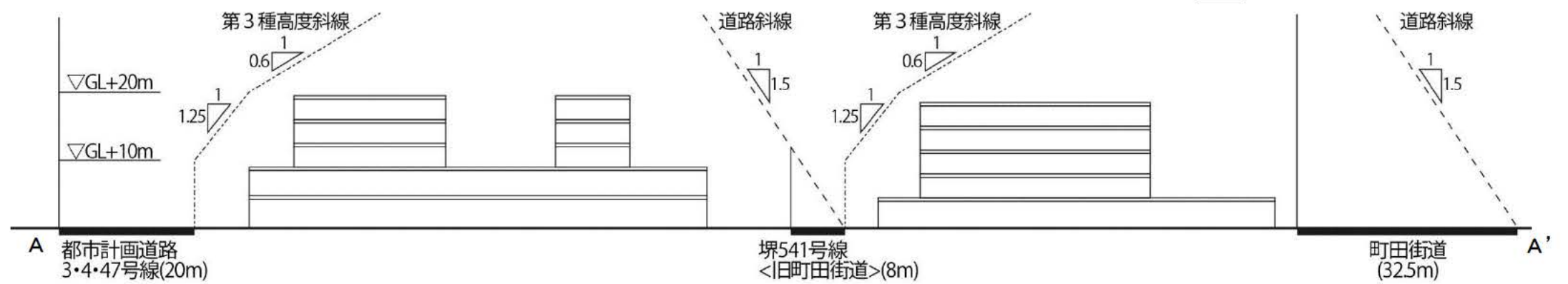
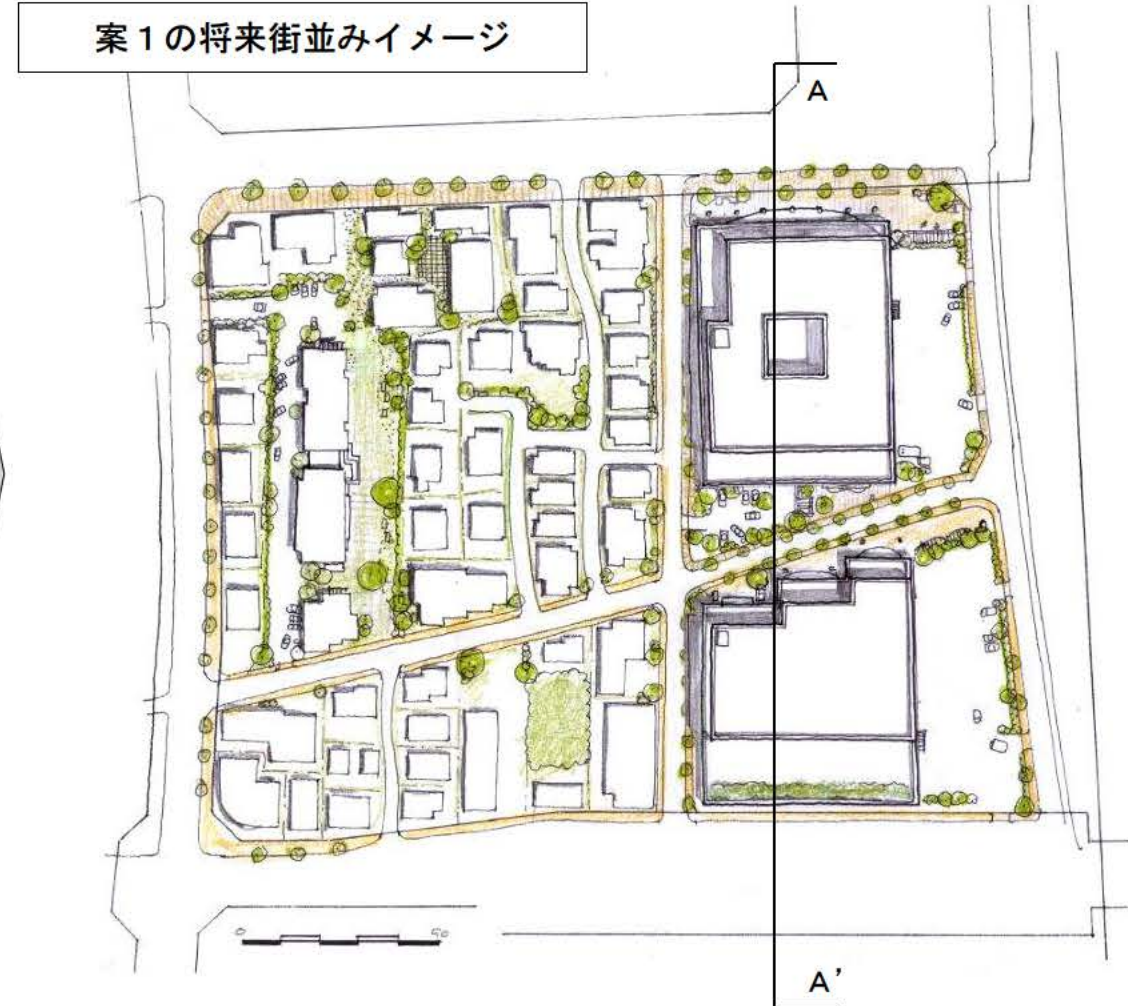
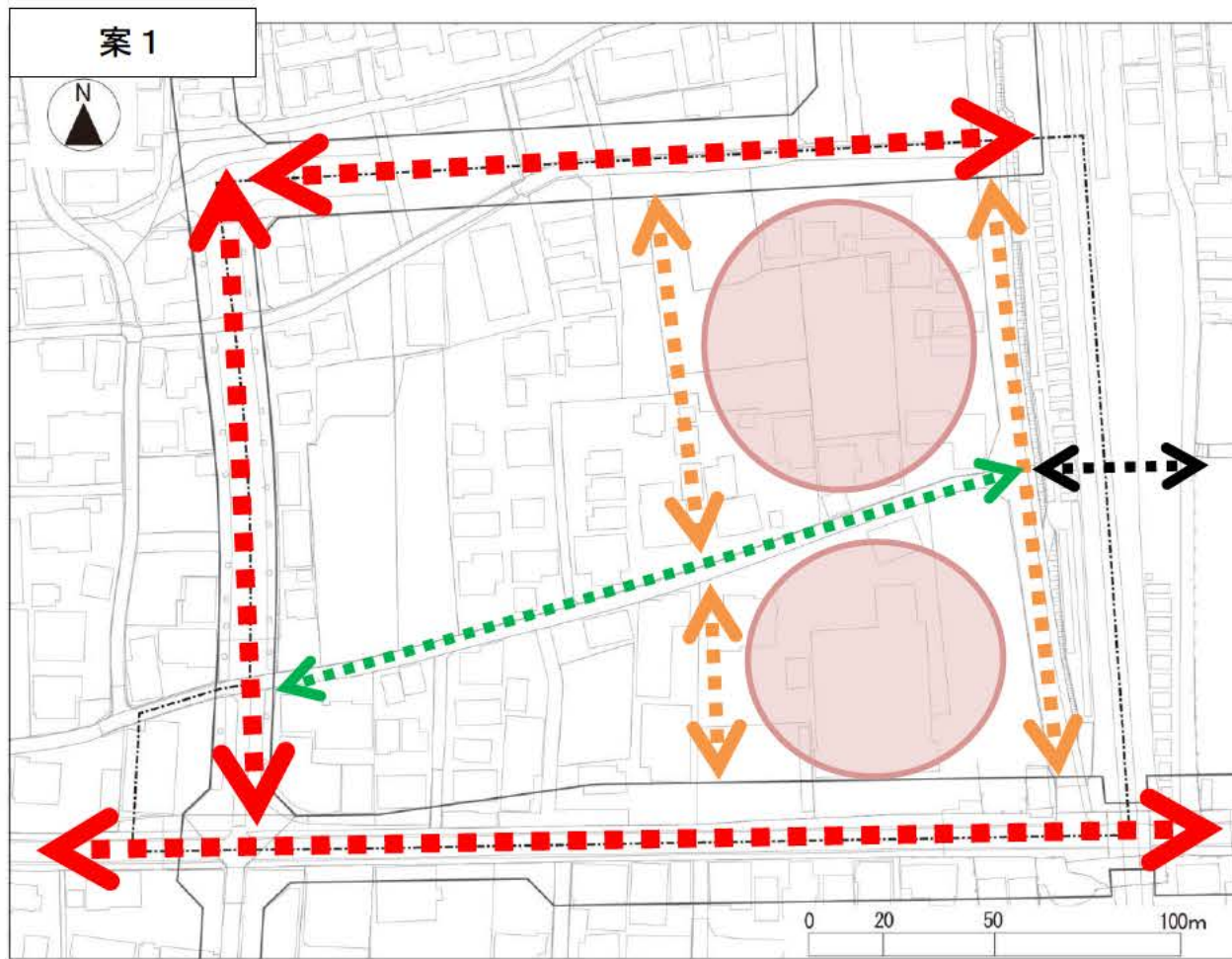
相原らしい活気と賑わいのある街とは・・・  
(橋本やみなみ野とは違う、地域の人々が地域で集まる場)

**商業機能**  
(相原地域の中心)  
(日常生活を支える商業施設の集積)

**コミュニティ機能**  
(地区内外から集まる)  
(周辺の自然・歴史・文化の拠点<観光>)  
(大学生が集まる+高齢者との交流)

**交通結節機能**  
(鉄道とバスとの結節点)  
(地区内の道路網構成で安全性等を確保)  
(駐車場・駐輪場機能)

**居住機能**  
(誰もが住み続けられる)  
(駅前の利便性を活かした住まい)



樹木を活かして建物配置した例



みどりの通り抜け



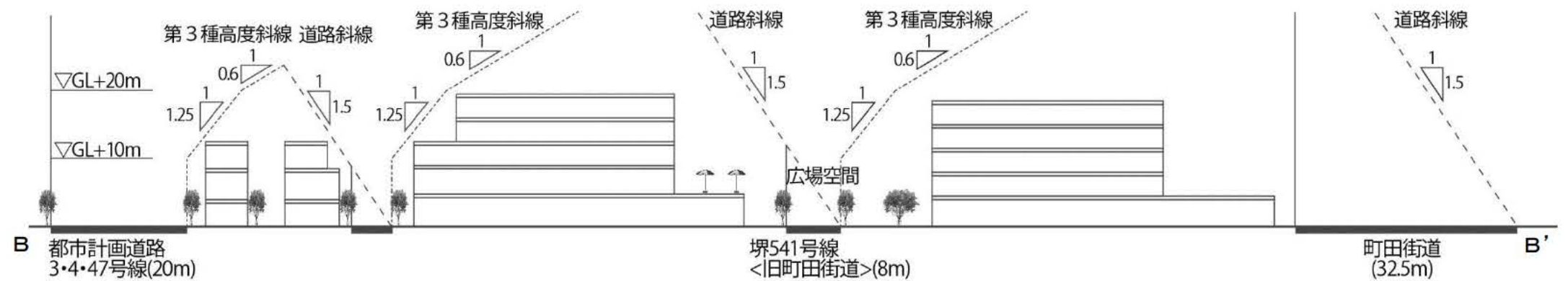
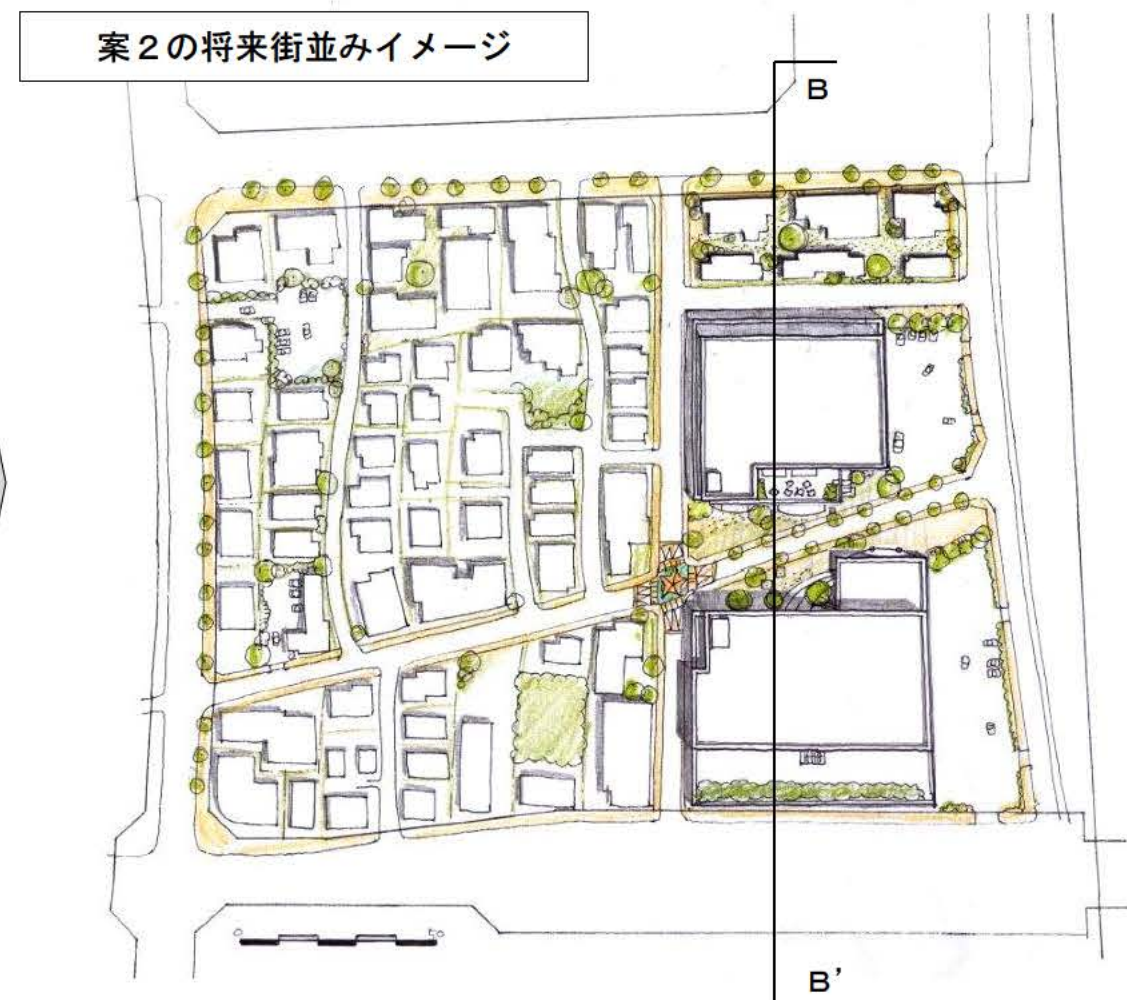
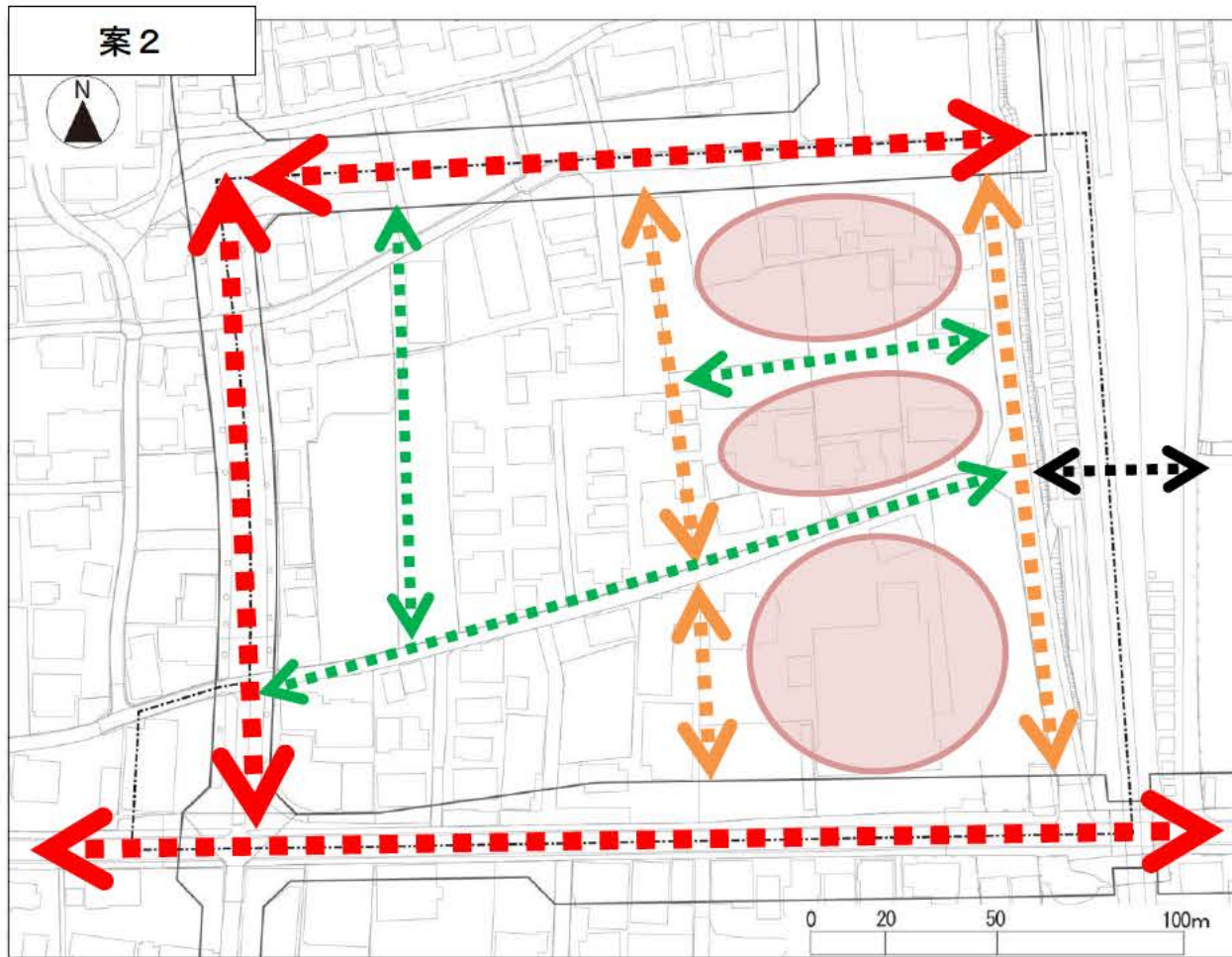
建物の足元の植栽



樹木を活かした駐車場



矢印は道路構成のイメージであり、具体的な場所や道路幅員、整備方法などを今後検討していきます。



植栽を活かした広場空間



樹木の上に床面を工夫した駐車スペース



樹木を活かして建物を配置する



みどりの通り抜け



矢印は道路構成のイメージであり、具体的な場所や道路幅員、整備方法などを今後検討していきます。